



磐二小だより

磐梯町立磐梯第二小学校
令和7年3月3日
第14号
発行責任者 天野 圭

キラキラとひとみが輝く二小の子ども

【今年は記録的な大雪】

大寒波が過ぎ、校舎外の緑も見え始め、ようやく春の訪れを感じるようになりました。今年は、記録的な大雪だったことで、誰もが例年以上に春を待ち望んでいることと思います。4月に着任して早いものでもう1年が経とうとしています。この間、子どもたちのよさや課題、保護者の願いや考え方、地域の方々の協力体制等、たくさん見たり聞いたりし、学ぶことができました。「子どもファースト」という言葉をよく聞きますが、私は、親も教師も地域の方もファーストだと思っています。その都度、立場によって変わってくると考えています。また、本校は地域との繋がりが強い学校ですので、積極的に地域に出向き、交流を図ってきたつもりです。まだまだ足りない内容もあると思いますが、皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

【授業参観・全体懇談会へご参加ください】

来週3月7日（金）に授業参観と全体懇談会・学級懇談会が行われます。今年度最後の授業参観と懇談会になります。担任以外も全職員が気合いを入れてお待ちしておりますので、ぜひご参加ください。

主な担当者からの説明内容を記載いたします。

【校長より】

- (1) 令和7年度の学校経営・運営ビジョンについて ③次年度についての説明
- (2) 令和7年度の年間行事予定について ③新規に追加した内容や削除した内容等の説明
- (3) 令和7年度の日課表について ③今年度との変更点についての説明
- (4) 令和7年度学級編成について ③学級数についての説明

【PTA 会長より】

- (1) 令和7年度 PTA 組織・北会津 PTA について
- (2) 徴収金について
- (3) 規約改正について



【教育委員会再デザインセンターより】

- (1) 学校選択制について
- (2) その他

当日、忌憚のないご質問やご意見などをお伺いいたしますので、積極的にご参加願います。

※大切なお願いです。

学級編成については、現在の児童数で編成しております。児童の転出等がある場合は、学級担任へ懇談会当日か前日までに必ずお話ください。可能性がある場合もお知らせください。

【特別活動（学級活動）の研究を継続】

令和7年度も【特別活動】学級活動（I）の研究を続けていきます。

我が国が目指す未来社会として「**Society5.0**」

「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する**人間中心の社会**」

が令和3年に内閣府より発出され、閣議決定しています。

この中で、特に人間中心の社会が一つのポイントになるかと考えております。

というのは、現在AI（人工知能）が劇的な進化を遂げています。人間がAIに使われるのではなく、人間がAIを駆使して、温かな人間社会を築いていくことが大切だと思います。今後ますます集団との関わりや社会性を高めていくことが必要だと思います。

本校の児童の実態

（優れていること）

○素直で優しい児童が多い。

○任された仕事は最後までやり抜く責任感が強い。

○異年齢での仲がよい。

（課題となること）

●自分から積極的に働きかけるなど、他者とのコミュニケーションが苦手である。

●自分たちの学校や学級について、課題を見出し、解決しようとする意欲が低い。

●様々な活動において、教師から受け身の姿勢であり、自発的・自治的な活動が困難である。

など、児童の課題もあります。

そこで、学級活動（I）話し合い活動を充実することにより、自分の考えを発表することや友達の意見に耳を傾け、折り合いを付けながら、合意形成ができる児童を目指し、研究を継続していきます。

子どもたちなりに、自分たちで決めた「小さな社会」を構築してほしいと願っております。

「話し合い活動の研究より、国語や算数を研究して成績を上げたい。」「生徒指導が大変だから、学級活動を研究することは難しい。」などと言う先生もいますが、私は子どもたちが学級内で「**自由に意見交換できる**」「**誰に対しても分け隔てのない学級**」が基本だと思っています。そのように安心できる学級づくりが基盤となり「学力向上」「生徒指導上の課題の激減」にも繋がるとと思っています。

また、話し合い活動は、担任の学級経営が充実していなければ成り立ちません。担任の学級力向上のためにも継続した研究を行っていきます。

【校長のひとりごと】

今年は例年になく積雪のおかげで、アルペンスキーの大会が予定通り実施されています。スキーのクラブチームに携わって20年以上になる中で、小学生から大人までの技術指導だけでなく、自分も楽しく大会に参加できることや交流できることに魅力を感じています。そんな中、技術的にどうしても「悪い癖」が付いている滑りをする人がいます。上級者が行う「他者と違う動き」は「個性」と捉え、その個性は基礎的・基本的な技術の上に成り立っていると思います。現在「多様性」と言われますが、スポーツ上達の過程では、基礎的・基本的な動きの上に多様性があることが大切で「悪い癖」が多様性では無いと感じています。何より自分自身で「悪い癖は能率の悪い動きであること」を自覚し、悪い癖から、理想的な動きへと上達した時、指導者として共に喜び合いたいと思います。